

# 國學院大學學術情報リポジトリ

## 舜子譚傳承考：継子いじめと聖人故事

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 繁原, 央, Shigehara, Hiroshi メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/00000222">https://doi.org/10.57529/00000222</a>

# 舜子譚伝承考

## — 継子いじめと聖人故事 —

繁原 央

中国古代の聖天子、堯・舜は禪讓によつて帝の位を譲つた理想の天子とされており、両者それぞれの物語が文献にも記録され、民間故事としても伝承されている。儒家によつて崇められたために特別な位置づけがなされ、なかでも舜は親孝行の代表として、中国の仁徳ある天子の象徴になつてゐる。文献では『書経』『孟子』『史記』をはじめとして各種の古典に記載され、孝子伝、二十四孝、敦煌変文にまでその名を見ることが出来る。一方、今日の民間伝承の中にも、神話、伝説、民間故事として舜及び舜関連の話があり、それは中国だけでなく日本にまで類話を指摘することができる。それらは文献に記録されたもの

が何らかの形で民間において語られるようになったものと受け取られかねないが、かならずしも文献そのままの語られ方ではなく、何がしかの変容をとげており、中には別の要素を取り入れたり、別の話に取り込まれたりした民間故事もある。

この舜子譚と継子譚との関係については、小島櫻禮「『シツディ・キュル』の形成と日本の中世物語の展開——日月の本<sup>①</sup>地」をめぐつて——に細かく論ぜられている。本稿は舜子譚の特徴である継子いじめと聖人故事を中心に周辺の故事も含め、管見に入つた類話を検討し、舜という神話的人物にまつる伝承を考えてみたものである。

一、日本における舜子譚

日本の各地に舜の話が昔話として伝えられている。関敬吾『日本昔話大成』では「継子と井戸」と題して220Aと220Bに分ける。<sup>2)</sup>

220Aは継子が継母により井戸に落とされ殺されそうになる話で、鹿児島県は大島郡喜界島、沖永良部島(主人公を「しゅん」とする)、同じ沖永良部島、徳之島(主人公を「しゅん」とし弟を「かおる」とする)の四例。広島県は深安郡(主人公を「しゃいん」とする)、同(これも「しゃいん」)の二例。新潟県は佐渡郡の一例。山形県は最上郡の二例。岩手県は遠野市の一例を記す。全部で十例である。

220Bに分類する方は、継子が井戸に入つてゆくと異世界があり福を得ると語るもので、香川県は三豊郡に一例。山口県鳴門市に一例。広島県佐伯郡に二例の四例を記す。

『日本昔話通観』は「182 継子の井戸掘り」と題してタイプ分類している。<sup>3)</sup>その類話は沖縄県だけで十六例を数え、「71 継子の井戸掘り―出世型」(那覇市〈名を「すん」という〉、島尻郡、宮古郡など七ヶ所)、「72 継子の井戸掘り―脱出型」

(具志川市、中頭郡読谷村など四ヶ所)、「73 継子の井戸掘り―離れ島脱出型」(石垣市〈名を「太春」という〉と宮古郡城辺町の二ヶ所)、「74 継子の井戸掘り―亡母援助型」(国頭郡と宮古郡の二ヶ所)、「75 継子の井戸掘り―炭焼き長者型」(那覇市)の五つに細分する。なお通観27巻の補遺に恩納村、与那国などの四例をあげており、全部で二十例となる。

鹿児島県は「106 継子の井戸さらえ―継子成功型」(大島郡〈名を「シュン」という〉の五ヶ所と鹿児島郡三島村二ヶ所の七例に補遺の徳之島の一例を加えると八例)、「107 継子の井戸さらえ―人まね型」(名瀬市〈継子の名を「常子」実子の名を「花子」という〉の一例)に分ける。広島県は「150 継子の井戸いき」として佐伯郡〈継子の名を「花子」、実子を「節子」という〉と深安郡〈名を「シャイン」という〉の二例に山口県長門市の一例を類話とする。新潟県佐渡郡小木町に「409 継子の井戸埋め」の一例がある。山形県(「224 継子の豆太鼓」と岩手県(「140 継子の訴え―継子と鳥型」と「141 継子の訴え―継子と笛型」)も類話としているが、この二県の例は井戸掘り、井戸さらえを語っていないので、継子いじめ譚ではあるが類話に加えない方がいい。

この日本の舜の話の系統については、伊藤清司「継子の井戸

掘り」(昔話伝説の系譜)所収)の論考があり、この「継子の井戸掘り」型の話は、中国の「舜の迫害譚」と同一の話として中国に起源を求めている。「舜の迫害譚」は『孟子』万章篇上と『史記』五帝本紀が出典だが、それとの比較だけでなく、今日の民間伝承にもふれ(陳鈞「害不知の大舜」『民間文学』を引く)、<sup>5)</sup>「敦煌変文」の『舜子変』の中の舜が井戸に生き埋めに遭うと援助者が助けてくれる点もふまえ、日本への伝来は沖繩県の「唐話」<sup>トバナシ</sup>より「いくぶん溯るとみていい」とされる。<sup>6)</sup>

## 二、中国民間故事の資料

一九八〇年代以前にも陳鈞「害不知の大舜」のように舜子の民間故事に注目した人はいただろうが、採集された数は多くない。一九八二年、中国民間文芸研究会(現「中国民間文芸家協会」)が全国規模で民間故事、民歌民謡、諺語の三種を採集記録する「三套集成」と俗称される大事業が始まり、一九八四年から陸続として報告された。民間故事の県単位の県巻本は四冊にもなった。一八四万篇の民間故事が採集され、この事業に従事した人は二百万人にのぼるといふ。<sup>7)</sup>それらは多く内部資料とされることが難しかったが、近年図書館等から廃棄され、

古書として売られだし、六五五冊ほど手元にある。

この四千冊の県巻本を基に一九九二年から二〇〇八年にかけて、二十七の省と北京、天津、上海の三つの特別市から「中国民間故事集成」が刊行された。全部で三十種三十三冊である。三冊多いのは新疆、四川、雲南の三省が上下二冊になったからだ。この事業により中国全土の神話、伝説、民間故事(日本という昔話にあたる)、笑話の大雑把な様相を知ることができるようになった。

しかし、基になった四千冊の県巻本を内部資料のまま死蔵させるわけにはいかないと、二〇〇四年に中国民間文芸家協会の白庚勝氏の提言で民間故事採集整理の組織が再結成され、「中国民間故事全書」として刊行が始まった。中国全土の県単位で三千冊刊行を五年で完結させると目標設定された。県巻本は県ごとの事情により、「中国民間故事集成」資料本とか「三套集成」内部資料と題して出版されたものから、ガリ版刷り仮綴じのものまで様々なため、まずモデル地区を二ヶ所選定した。雲南省大理白族自治州分巻と湖北省宜昌市分巻中の「当陽巻」である。両書の編集方法により内容が神話、伝説、故事、笑話の四大項目に分けることと、講述者(話者)、記録者(採集者)などの基本情報を明記することが示された。ただ「当陽巻」には

採集地と採集時期が記してなく、モデル本としては不備だと言わざるを得ない。

この「全書」事業も中国全土となると、そう簡単にできるものでなく、二〇一五年までに十一省一市から一五九冊刊行されたに止まる。さらに中国民間文芸家協会の事情からか、二〇一四年に「中国民間故事叢書」と名を改め、羅楊氏の総主編で同じ知識産権出版社から版型も変えて刊行された。二〇一六年八月現在五〇冊になる。県巻本が再整理され公刊されることは喜ばしいかぎり、県単位の民間故事が出そろえば比較資料として意味あるものとなるだろう。<sup>8)</sup>

### 三、中国民間故事中の舜子譚

近年採集された民間故事の県巻本、集成、全書、叢書の中から、舜子譚を捜すと四十四例あった。県巻本六五五冊中に三十三例あり、集成に二十一例あったが、集成は県巻本を基に再掲しているの、両者に共通する同文のものが十一例あったため、話数は四十三例となる。全書百五十九冊中に舜子譚はなかった。叢書には一例あったので、管見に入った舜子譚は四十四例となる。今後叢書が刊行されるにつれて舜子譚が収録され

ることを期待したい。

四十四例の出版を示せば次のようである。省ごとに北から南に記す。(集成は「中国民間故事集成」、叢書は「中国民間故事叢書」のこと)

- 1、甘肅省天水市北道区「舜的伝説」集成、甘肅卷、2001年、21頁。
- 2、陝西省淳化県「大舜的伝説」「淳化県民間故事集成」1992年、1～2頁。
- 3、河北省寧晋県「堯帝禪舜」「寧晋県故事卷」1989年、3～8頁。
- 4、山東省済南市「大舜的伝説」「済南民間故事」1986年、1～7頁。ほぼ同文のものが集成の山東巻に016「舜耕歴山下」と題して収める。
- 5、同 済南市歴下区「舜井鎖蛟」「歴下民間文学集成」資料本一、1989年、87～89頁。ほぼ同文のものが集成、山東巻24に収める。
- 6、同 費県「堯王選賢」「費県民間文学集成」故事巻一、1988年、51～52頁。同文のものが集成の山東巻に014として入れる。
- 7、同 諸城市015「堯主訪舜」集成、山東巻、2007年、

- 17、18頁。
- 8、河南省陝県「舜耕黎山」『三門峡民間文学集』上、2000年、105頁。
- 9、同 南陽県039「堯王訪賢」集成、河南卷、2000年、46～47頁。
- 10、同 偃師県。040「舜王逃生」集成、河南卷、2000年、47～48頁。
- 11、同 偃師県041「舜王封娘娘」集成、河南卷、2000年、48頁。
- 12、山西省翼城県023「舜耕歷山」集成、山西卷、1999年、40頁。
- 13、同 沁水県024「舜王伝芸可陶村」集成、山西卷、1999年、40～41頁。
- 14、同 芮城県025「舜王打井」集成、山西卷、1999年、41～42頁。
- 15、同 翼城県026「丹朱墓」集成、山西卷、1999年、42～43頁。
- 16、浙江省紹興市「舜王和神龍的伝説」『紹興市故事卷』上、1989年、48～50頁。同文が『中国民間文学集成浙江省紹興市紹興故事卷』1989年、21～23頁にある。
- 17、同 蕭山市「堯拜舜為天子」『杭州市故事卷』上卷、1989年、23～24頁。ほぼ同文のものが『中国民間文学集成浙江省杭州市蕭山市卷』1989年に「舜湖」と題を変えて入れてあり、さらに集成の浙江卷1997年77頁にも058「舜拜天子」と題して同文を載せる。
- 18、同 寧波・慈溪、「虞舜伝説」叢書、『浙江寧波慈溪卷』2015年、7～8頁。
- 19、同 武義県036「虞舜開田」集成、浙江卷、1997年51～52頁。
- 20、湖北省随州市030「舜的伝説」集成、湖北卷、1999年36～37頁、異文を37～38頁に載せる。
- 21、同 房県「舜耕歷山」『神農架民間故事集』1990年、64～66頁。
- 22、湖南省東安県「堯王選賢」『東安県資料本』上卷、1987年、21～22頁。
- 23、同 「舜皇戰寿仏」同 23～26頁。
- 24、同 「舜皇菩薩実霊」同 27～29頁。
- 25、同 「升米確坑」同 30～32頁。
- 26、同 「堯王訪舜」寧遠県一帯、69頁。零陵「零陵地区分卷」上冊、1988年、「伝説」の部

- 27、 同「舜帝南巡」 同 九疑山一带、70～73頁。
- 28、 同「舜帝審案」 同 寧遠県一带、74～76頁。
- 29、 同「舜帝見許由」 同 寧遠県、76～78頁。集成の湖南卷の046も同文。
- 30、 同「舜和舜妹の伝説」 同 寧遠県一带、79～83頁。
- 31、 同「舜和后娘」 同 東安県、84頁。集成の湖南卷の047も同文。
- 32、 同「舜王与白想」 同 道県、86頁。
- 33、 同「九疑岩里黄河流」 同 寧遠県、87～89頁。
- 34、 同「舜帝和娥皇女英」 同 藍山県舜郷一带、89～92頁。集成の湖南卷の048もほぼ同文。
- 35、 同「舜帝之死」 同 寧遠一带、93～94頁。
- 36、 零陵『零陵地区分卷』上冊、1988年、「神和神性英雄神話」の部
- 37、 同「舜皇偷雨」 同 東安県、55頁。
- 38、 同「斬蚊洞」 同 道県、56～57頁。
- 39、 同「刀削峯の由来」 同 寧遠県、58頁。
- 40、 同「三分石」 同 寧遠県一带、59～60頁
- 41、 同「二妃与百鳥」 同 寧遠県一带、61～62頁。
- 42、 同「珍珠墓」 同 寧遠、藍山等県、62～65頁。
- 43、 貴州省畬族・都勻市020「舜祖請太陽」集成、貴州卷、24～25頁。
- 44、 四川省成都市「舜射九日」『成都民間文学集成』1991年、52～54頁。集成の四川卷上冊の062に再掲。
- この四十四例を内容から類話ごとに分けると次のようになる。いくつかの項目にまたがっているものはそれぞれの所に入れる。Aの「ハ、継母の色じかけ」は該当する民間故事はないが、『舜子変』にあるので今後の発見を期待して項目をたてておく。
- A、継子いじめの故事
- イ、焼廩と墳井—1、3、4、10、14、20、20異文、21
- ロ、継子と炒り豆—10、31
- (ハ、継母の色じかけ—敦煌変文、沖縄の昔話「継母と王位」など)
- B、仁徳を示す聖人故事
- イ、開田耕地—3、4、13、19、20異文、21、28
- ロ、牛を問う—2、6、7、8、9、12、17、22、26
- C、舜子周辺の記事

イ、二妃—11、41

ロ、九疑山—39、40、41

ハ、悪龍退治—5、16、27、30、33、34、36、38、40、42  
ニ、その他

許由—6、29。丹朱—15、18。寿仏—23。舜の遊行—

24。白想—32。舜の死—35。黒土の由来—37、射日—  
43、44

Cの「ニ、その他」に入れるのが十一例もあるのは、舜子譚の広がりを示しているが、そこには文献に記録されたものがそのまま語をされているが、そこには文献に記録されたものがそのまま語られているか、それとも改作されているか、興味深い。文献そのままであるわけではないにしても、口承される間にどう変形したかみていきたい。

### A、継子いじめの故事

#### イ、焼廩と墳井

甘肅、河北、山東、河南、山西、湖北（3例）の八例である。そのうち山西省の集成の「14舜王打井」のあらすじは次のようである。

杜庄郷歴山の村に二つの古い井戸がある。一方は苦い井戸で、一方は甘い井戸という。伝説によると、これは大舜に由来するものである。舜が堯の都・平陽で役人になっていたが、娥皇・女英の二人の妻を連れて家に帰った。舜の母は継母で、父は瞽叟といい、目が見えなかった。継母との間に象という男の子と糸という女の子があった。家中で舜を虐待し殺そうと思っていた。舜が妻を連れて帰ってきたので継母は象と図って娥皇・女英を奪おうと計略を巡らした。ある日、継母が井戸の旁で金の簪を井戸に落とし、「重華や、金の簪を拾っておくれ」といった。舜は親孝行なので、井戸に降りるときに承知した。舜が井戸の底に降りた時、継母は象と繩梯子を切り、石を投げおろし、石板で井戸の口をふさいだ。二人は満足げに舜の住居に行き舜の妻と財産をとろうとした。継母が舜の二人の妻に、「舜は死んだ」といったが、娥皇・女英は驚かなかった。その時琴の音が聞こえた。舜が弾いているのを見て驚き、弟の象が「生きていたんですか。私たちは知らせに来たんです」という。継母は顔が土色になり舜がどうやって出てきたか分からない。もともと井戸は二つの穴があり、それはそう遠くなく通じていたのだ。舜は石が落ち



てきた時、急いで二つの井戸の中間にいて、継母がいなくなるのを待って、別の井戸からはい出したのだ。舜の眼から流れた涙で井戸の水が苦くなり、簪の井戸の水は甘くなった。舜の継母は何回も舜を殺そうとしたが出来なかった。舜はそれでも変わることなく父母を孝養し、弟を助けた。象は恥ずかしくなり、ひざまずいて兄と二人の兄嫁に詫びをいれた。(薛振東講述、文暁採録、1984年、芮城県杜庄郷歴山村にて採録)

二つの井戸の由来伝説で填井のモチーフからなる。これには焼廩の部分はない。

この焼廩と填井のモチーフは『書経』になく、『孟子』にある。『孟子』の万章章句上の該当部分を書き下し文で記す。

万章曰く、父母舜をして廩を完めしめ、階を指つ。瞽叟廩を焚く。井を凌へしむ。出づ。従つて之を拵ふ。象曰く、都君を蓋ふことを謀るは、咸我が績なり。牛羊は父母、倉廩は父母。干戈は朕、琴は朕、弧は朕、二嫂は朕が棲を治めしめん、と。象往きて舜の宮に入る。舜、牀に在りて琴ひけり。象曰く、鬱陶として君を思ふのみ、と。

惛悴たり。舜曰く、惟れ茲の臣庶、汝其れ予に于て治めよ、と。識らず、舜は象の將に己を殺さんとするを知るざるか、と。

と万章の質問の部分で触れている。注意すべきは継母によるいじめという印象はなく、父と弟が殺そうとしている点である。まだ継母の継子いじめと明確に語っていないとみるべきだろう。

その点は司馬遷の『史記』も同様だが、内容は次のようである。

瞽叟、尚復た之を殺さんと欲し、舜をして上りて廩を塗らしめ、瞽叟下より火を縱ちて廩を焚く。舜、乃ち両笠を以て、自ら扞ぎて下り去り、死せざるを得たり。後、瞽叟又舜をして井を穿たしむ。舜、井を穿ち、匿空の窟出せるを為る。舜既に入ること深し。瞽叟、象と共に土を下し井に実たす。舜、匿空より出で去る。瞽叟・象喜び、舜を以て己に死せりと為す。象曰く、本謀る者は象なり、と。象、其の父母と與に分たんとす。是に於て曰く、舜の妻なる堯の二女と琴とは、象之を取らん。牛羊倉

麋は父母に予へん、と。象乃ち舜の宮に止まり居りて、其の琴を鼓す。舜往きて之を見る。象、鄂として擇ばずして曰く、我、舜を思ひ、正に鬱陶たり、と。舜曰く、然り、爾其れ庶し、と。舜、復た瞽叟に事へ、弟を愛して弥、謹めり。<sup>10)</sup>

より詳しくなっていることがわかる。これが劉向の『列女伝』で、「一、有虞二妃」になると、瞽叟と象の謀りごとに対して二妃が舜に助言と鳥工や龍工を持たせて助けるといふふうに変えている。<sup>11)</sup> 二妃の内助の功を加えたといえよう。下って六朝時代の孝子図の画像石をみると、絵の脇に次のような説明丈が書いてある。

「舜後母燒麋」「与象敖填井」「舜父瞽叟」「帝舜二妃娥皇女英」「虞帝舜」(司馬金龍漆凶屏) 484年、山西省博物館・大同市博物館分蔵)<sup>12)</sup>

これは舜子譚のうち燒麋と填井と二妃を娶る話が描かれたものとわかる。さらに寧夏回族自治区の固原北魏彩繪漆棺は太和(477~499年)ころのものとされる絵があり、絵像の傍の文字は

次のようである。

「舜後母將火燒屋欲殺舜時」「使舜逃井灌德金錢一枚錢賜  
 □石田時」「舜德急從東家井里出去」「舜父開萌去」「舜後  
 母負菑互易市上売」「舜來菑」「応直米一斗倍德二十」「舜  
 母父欲德見舜」「市上相見」「舜父共舜語」「父明即開時」(固  
 原博物館蔵)<sup>13)</sup>

この断片的な説明文をみただけで、後述の敦煌発見の『舜子變』とほぼ同じ内容のものであったことが推測できる。すなわち燒麋と填井のあと、父は目が見えなく貧乏になり、母が菑(ひるがお、変文では薪)を市で売っていると、舜が気づいて米と交換してやり、お金まで入れてやる。父が気づき市場にゆき舜と再会し、舜のおかげで父の目もみえるようになったという内容だろう。すでに六朝のころから、この語り方がされていたのである。

口、継子と炒り豆

この話は「10、舜王逃生」(河南省偃師県)のもの、「31、舜和后娘」(湖南省東安県)の二例しかない。前者の前半のみ

ると、

舜が小さい時母が亡くなり、父は後妻をもらった。後妻は子を産み象と名付けられた。舜と象は兄弟だが扱いに差があった。舜は毎日罵られ満足に食べられず、着られず、象は良いものを食べ、着ていた。後妻は象に家を継がせようと舜を殺そうとしていた。ある日、父は二人に麻を植えるようにいった。後妻はチャンスと思い、悪いたくらみを企てた。「二人はそれぞれ植えて麻が生えたら家に帰っておいで」といい、舜の麻の実を炒ったものを与えた。二人は路を歩いて象は麻の実を食べたがうまくない。舜の麻の実は香りもよく食べられるので象は兄と交換してもらった。舜は麻の実を換えたので何日も経たずに芽が出たが、象が植えたものは出なかった。舜は後妻の話を思い出し家に帰った。後妻は聞いて怒った。

後半は焼廩と填井の話になっている。

「継子と炒り豆」については考察したことがある<sup>10)</sup>。その段階では中国の継子譚からこのモチーフを持つ話は見つけていなかった。中国の小鳥前生譚に含まれるものを四十例指摘し

た。「10、舜王逃生」と同じ河南省の例として、次のような話を紹介している。

継母が継子をいじめ、自分の子と一緒に芝麻を撒かせる。継子には炒った種を渡すが、実子は兄と種を交換する。実子の芝麻は生えず、死んで黒い小鳥となり鳴く。

〔娘炒芝麻誰知道〕口述者〓謝青奇。整理者〓李華強。  
『丹江的伝説』中国民間故事集成河南浙川卷一、河南省浙川県民間文学集成編委会編、1987年、286〜287頁。内部資料)

芝麻の種をまく点も共通している。「継子と炒り豆」のモチーフが様々な話型の中に組み込まれやすいということだろう。継子譚を精査すればこのモチーフはもっと見つかるとは必ずである。

#### 八、継母の色じかけ

このモチーフは民間故事の中からまだ見つけていないが、継子譚としてはありうるモチーフだし、何より『舜子変』に継母が継子に「よからぬ心」をおこしたと夫に訴える部分があるので、一つの項目をたてておく。敦煌文書の『舜子変』の訳は早

く入矢義高によってなされたが、近年、玄幸子により精緻に訳された。<sup>15</sup>ここでは箇条書きであらすじを追っておく。

- 1、舜の実母・樂登夫人が病にかかり、三年臥せっていたが、夫の瞽叟に舜を託して亡くなる。
- 2、瞽叟は継母を迎えるが、十日も経たないうちに遼陽で戦さが起こったからと稼ぎに行く。
- 3、三年経っても戻らない。ある日舜が歩琴を奏でていると老人が遼陽から父の手紙を持ってきた。母に告げると継母は計略をたて、舜に庭の紅桃を摘むよういう。
- 4、舜が桃を摘んでいると継母も桃の木の下にきて、簪を抜いて自分の足を刺し、大声で舜を呼び足の棘をみさせる。
- 5、瞽叟が帰っても継母は床に就いたまま起きないので、聞くと涙を流して、舜が桃の木の下に棘を理めていたので、それに刺されて足が傷つき、痛くて起きられない、私がいけないのを見てよからぬ心（原文は猪狗之心）をおこしたのだという。
- 6、瞽叟は舜を呼び問い詰めると、舜は言い訳をせず、重い罪を犯しました、存分に叩いてくださいという。瞽

叟は象児を呼び、鞭を持ってこさせ、舜を鞭うつ。血が流れ地を覆う。

- 7、百鳥がなき、天帝がそれを知って下界に降り、方術を舜に施し、舜は打たれなかったかのよう。

このあとに、焼廩と填井の話があり、舜は歴山で耕作し、米が大豊作になる。一方、瞽叟は目が見えなくなり、一家は貧乏になって、継母が薪を売りに市場にゆくと、舜が米と換えてやり代金も袋に入れてやる。父の瞽叟が舜の仕業かと気づき、市場にゆき舜とあい、瞽叟の涙を舜がぬぐい舌でなめると、目が見えるようになる、と続く。この後半部分は前述の固原北魏彩繪漆棺と共通の展開である。

継母が継子を陥れるために誘惑するという設定は、沖縄県具志川市の伝説「一日橋」が『日本昔話通観』の「183 継子と王位」として一つのタイプにされている。<sup>16</sup>

- 1、継母の妃が体に蜜を塗り、継子がそれにとまった蜂を払うと、継母は王に、継子が乳房をつかむ、と讒言する。

- 2、王が家来に継子を殺すよう命じるが、家来は継子を山

奥の家に預ける。

- 3、人々が次男に王位を継がせることに反対するので、継子の生存を知った王は継子にもどってくれと頼む。
- 4、たび重なる王の願いにこたえて、継子は、死にいく道とは別に生きる道の橋を一日で作り、それを渡って帰る。

継子いじめのいじめ方は難題譚の難題と同じで、多様なものになりうるだろうから、色じかけもありえるだろうし、その方法もいくつかのパターンがありそうだ<sup>17)</sup>。

## B、仁徳を示す聖人故事

### イ、開田耕地

舜は聖天子なので聖人らしい仁徳譚として、歴山で耕したという『書経』の記事を踏まえたものを指摘しておこう。すなわち、『書経』大禹謨に、

帝初め歴山に于て、田に往き、日に号泣して旻天を于び父母を于ぶ。罪を負ひ慝を引き、載を祇みて瞽叟に見え、夔夔として齊慄すれば、瞽も亦允若す。

とあるもの<sup>18)</sup>で、この歴山の位置について吉田賢抗は『辞源』により、以下の四カ所が有名だという。<sup>19)</sup> ①山西省永濟県東南、②山東省歴城県東南、③山東省濮陽県東南、④山西省翼城垣曲陽城沁水之交である。それぞれの地に伝承がありそうだが、管見に入ったのは河北、山東、山西、浙江、湖北(2)、湖南の七ヶ所である。そのうち山東省の済南の話の冒頭は、

1、伝説によると、虞舜の家は済南の南、歴山の麓と瀉水のあたりにあった。舜の父は目が見えず、母は舜が幼いころ病死した。後に後妻を娶り、象が生まれた。後妻は舜を虐待していた。

2、舜は山洞で天に向かって哭いて訴える。すると山野の鳥獸が土を掘り起こし、種をもたらし助けてくれ、荒地を開くことができた。象が来て耕し、鳥が種をもたらしただのだ。井戸を掘り、人々が集まり土地も境界を決めて争いをなくした。

3、瀉水には魚がたくさんいた。虫を使って魚を捉える釣りの仕方、陶器の作り方を発明し人々に教えた。

という内容が記してあり、文化英雄としての起源譚が語られている。この話の後は堯が二人の娘を舜に与え、弟の象が兄嫁をみて横恋慕し兄を殺そうと思ひ、焼廩と填井の話になる。<sup>20)</sup>  
 農耕、釣魚、作陶、造酒、金銀の発見など文化の起源に関する由来譚を持つ話が各地にあるのは聖人らしい。

□、牛を問う

舜子譚で最も特徴的なモチーフはこれではなかるうか。堯が舜のうわさを聞き、どういふ人物かたしかめにきた時の話で、陝西、山東(2)、河南(2)、山西、浙江、湖南(2)の九ヶ所にある。河南省南陽県の「堯王訪賢」のあらずじは次のようである。

堯が位を譲る人を考え、九人の息子をみて天下を治める能力はないと思ひ、民間に賢者を捜した。歴山の麓の瞽叟という男に舜という息子がいた。母は死に瞽叟は後妻を娶った。後妻は舜を目の中の釘と思つた。ある日、堯がここにきて舜がいじめられても害されなないといふので会いたいと思つた。舜は黄牛と黒牛を使つていたが、牛の尻に籠をつけていた。堯王は奇怪に思ひ舜に問うた。「犁の横に

いるのはどうしてか」「母の話の聞くためです」「牛の尻に籠をつけているのはなぜか」「鞭を直接あてたら痛いから、籠を叩くためです」といふ。堯王が「あなたの黄牛と黒牛のどちらが早く田を鋤くか」と聞くと、「黄牛も黒牛もどちらも早く鋤く」といふ。堯は失望した。両方の牛とも早いわけはない。立ち去ろうとした。百歩ほど遠くに行つたところで、舜がきて「待つてください」といふ。「あなたが去ろうとしているのは、私の答が不満だったからでしょう。牛はもともと黄牛が早く黒牛は早くない。それを二頭の前でいふと黒牛はいやに思つてしよう。だから両方早いといたのです」堯はこの答を気に入り、舜に娘の娥皇と女英を与え、位を舜に譲つた。<sup>21)</sup>

九ヶ所の動物は次のように変わるし、質問者も堯ばかりではない。

- 2、陝西省淳化県——二頭の牛。舜が老人に問う。
- 6、山東省費県——黒牛と黄牛。堯王が舜に問う。
- 7、山東省諸城県——二頭の牛。堯が舜に問う。
- 8、河南省陝県——二頭の牛。舜の妻が舜に問う。

- 9、河南省南陽県—黄牛と黒牛。堯が舜に問う。
- 12、山西省翼城県—大小二頭の象。人々が舜に問う。
- 17、浙江省蕭山市—雄牛と雌牛。堯が舜に問う。
- 22、湖南省東安市—牛と馬。堯王が舜に問う。
- 26、湖南省寧遠県—黄牛と水牛。堯が舜に問う。

山西省翼城県の象が田を耕すとあるのが変わっていると思うだろうが、舜が象を耕作に使うというのは前述の画像(石)に見ることがができる。

「遼寧鞍山市汪家峪遼画象石墓」<sup>22)</sup>は人物の前の動物は小さいながら象のようだし、遼の「張君石棺」(北宋崇寧五年11106)に舜らしき人物の前に象が描かれ手前に猪が描いてある。舜は手に棒を持ち、象を追っている。「輝県石棺」は象の脇に舜子が立っている。さらに「河南宜陽北宋画像石棺」は北宋の政和七年(1117)のもので二頭の象と舜子、手前に小さく猪を描く。また「山西長治市故漳金代紀年墓」のは金の大定二九年(1189)のもので、舜子の前に象と黒猪を同じ大きさに描く。<sup>23)</sup>

民間故事の中には猪(猪。変文は猪とある)が田を耕すと語るものはないが、この山西省の話のように象が耕すと語ってお

り、これは宋代までさかのぼることができそうだと。

### C、舜子周辺の故事

#### イ、二妃

河南省偃師県と湖南省寧遠県に一例ずつ、舜の二人の妃、娥皇と女英を中心に語る話がある。両者に関連はなさそうなので、内容は省略する。

#### ロ、九疑山

湖南省永州市寧遠県にあり、蒼梧山ともいう。舜帝が南巡したところで、舜が没した場所とされ、ゆかりの伝説が残っている。湖南省寧遠県に伝わる二つの話は山の形と対応させた由来譚であるが、略す。

#### ハ、悪龍退治

山東、浙江、湖南(8)に十例伝承されており、なかで山東省済南市歴下区の話のあらすじは次のようである。

ある時には日が何ヶ月も燃え、山野が干上がったたり、ある時には何日も大雨が降り続き、作物が水没し、家も壊

れ、人々は火や水の中にいるようだった。その時、禹が身を挺して民を救った。そのため禹を怨んだ者がいた。東海の水怪・巫支祁である。これはもともと悪い蛟で長年苦しい修煉をし、人の形になった者で、頭は蛇で牙を持ち、凶悪だった。その者は万人の上に立ち、天下の首領になりたかった。舜はその凶相を見、その言葉に野心と狡猾さを感じ、良くない人物と断定し、その要求を拒絶したが、それを巫支祁は恨みに思っていた。後にその者は舜が禹に天下を譲ったと聞き、眼を赤くして怒り、舜に報復し、禹を除こうとしたが、舜は世を去り、巫支祁は禹に敵対し、禹とは共に天を戴かないと誓った。

以下、禹が巫支祁を捕まえ、舜井に鎖で繋ぐが、後年ある男が舜井に繋がれた大黒蛟に柴を放ると、ものすごい音とともに大黒蛟は東海に飛び去ったと話は展開するが、後半は略す。<sup>24)</sup>

これ以外の話は悪龍を巫支祁と言っていない。神龍（浙江）、独龍（寧遠）、水怪（九疑山）、悪龍（藍山県）、大蟒（寧遠）、蛟龍（寧遠）、妖蛟（道県）、悪龍（寧遠、藍山などの県）という。龍退治は治水をした禹の神話のモチーフのはずだが、禹に治水を命じたのは舜だとして、この話が伝承されているのだから。

う。

## 二、その他

許由にまつわる話は山東と湖南にあり、堯の息子・丹朱にまつわる話は山西と浙江にある。貴州と四川には舜が羿の代りに日を射る伝承がある。その他の寿仏、舜の遊行、白想、舜の死、黒土の由来は皆湖南省の伝承であり、一話だけの伝承である。これらは舜子譚の広がりを示していて、それぞれ何らかの背景があるうが、類話がない今の段階では紹介するにとどめた。

## 四、まとめ

中国に伝承される民間故事から舜子譚を抜き出し話の内容を検討してきたが、限られた資料の中だけでも興味深いものがあった。中国古典の『書経』『孟子』『史記』『孝子伝』『列女伝』『舜子変』などは研究されている。『史記』『五帝本紀の舜の記事』を見ても『孟子』だから書かれたとは思えない。敦煌文書の『舜子変』が語り物を基にしていることは明らかである。さらに近年の棺墓の象の画像からも、変文の段階とは別の伝承が発



生していることが推測できる。

口承文芸は語り手の伝承にそれなりの継承性があるとはいえ、基本的に語り手の恣意性に委ねられるものである。気分次第で自由に改変できるわけだが、それでもそこには何らかの枠がある。個々の話にはタイプ（話型）が設定できるし、モチーフ（話の構成の核になるもの）は根強い伝承力を持つ。

舜子譚は継子いじめの一つの典型として記録され、語られた歴史をもつ。現代の民間故事の中では継子いじめの「焼廩と填井」は、文献と同様に語られ続けられているが、「継子と炒り豆」の話を取り込んだものもある。一方、舜が聖人とされたこととの反映として文化英雄と語るものも、文献を踏まえて語られている。その中では「牛を問う」でみられるように舜の人物を示す新たなモチーフが登場している。舜子周辺の故事では悪龍退治譚が好まれるようで、禹の治水と関連しつつ、舜に対する信仰を感じさせる。

注

(1) 小島環禮著「『シッデイ・キュル』の形成と日本の中世物語の展開―「日月の本地」をめぐって―」（昭和60年琉球大学教育学部）、及び小島環禮「日本の継子譚の形成を考える―東で伝わる昔話群から―」（日

本口承文芸学会第65回研究例会、2013年10月19日、白百合女子大学）。

- (2) 関敬吾編『日本昔話大成』第五卷本格昔話四、昭和五三年、角川書店、284～290頁。
- (3) 稲田浩二著『日本昔話通観』第28巻昔話タイプ・インデックス、1988年、同朋舎出版、314～315頁。
- (4) 稲田浩二編著『日本昔話通観』第27巻補遺、1989年、同朋舎出版、113頁。
- (5) 陳鈞「害不知の大舜」『民間文学』1964年第3期、54頁。
- (6) 伊藤清司「昔話伝説の系譜」『継子の井戸掘り』1991年、第一書房、286～303頁。
- (7) 白庚勝「春天的故事」『民間文化論壇』2005年第5期原載「中国民間文芸年鑑」二〇〇五年卷再掲、15～18頁。「中国民間故事全書」の総序として各巻巻頭に載せる。
- (8) 拙稿「中国民間故事集成、全書、叢書「民間故事の整理状況」」「比較民俗学会報」第三六巻第四号、2016年4月、16～20頁。
- (9) 内野熊一郎「孟子」新釈漢文大系4、昭和37年初版、明治書院、321頁。
- (10) 吉田賢抗「史記」一、本紀、新釈漢文大系、昭和48年初版、明治書院、54～55頁。
- (11) 山崎純一「列女伝」上、新編漢文選、平成8年、明治書院、86～87頁。中島みどり訳注「列女伝」1、2001年、平凡社東洋文庫686、43～72頁にも詳しい注がある。
- (12) 宇野瑞木「孝の風景」2016年、勉誠出版、126頁。
- (13) 宇野瑞木「前掲書」127頁。
- (14) 拙稿「日中継子譚の「モチーフ」―「継子と炒り豆」を中心に―」『名古屋学院大学論集（言語文化篇）』26巻2号、2015年3月、1～

- (15) 入矢義高訳「舜子変」『仏教文学集』中国古典文学大系、昭和50年、平凡社128頁。玄幸子「変文資料再整理——「舜子変」」『関西大学東西学術研究所紀要』第48輯、平成27年4月、69頁、88頁。
- (16) 稲田浩二・前掲書、第28巻315頁。
- (17) 例えば梓物語の『七賢人物語』にも王子を後妻の妃が誘惑する話がある。西村正身『七賢人物語』1999年、未知谷、21頁、26頁。
- (18) 小野沢精一『書経』下、新釈漢文大系26、昭和60年、明治書院、377頁。
- (19) 吉田賢抗・前掲書、53頁。
- (20) 徐臻講述、李奎元採録「大舜的伝説」1986年济南市にて採録。『済南民間故事』李奎元等搜集整理、1986年、1頁、7頁。集成、山東巻18頁、21頁もほぼ同文。
- (21) 杜家典講述、張楚北採録。1982年、南陽市にて。集成、河南巻、2001年、46頁、47頁。
- (22) 宇野瑞木・前掲書、689頁。出典は『考古』1981年第三期。
- (23) 同上、689頁。
- (24) 韓兆福講述、李奎元採録。1986年『済南民間故事』に発表したもの。この巫支祁の伝承に関しては黄芝崗『中国的水神』1934年、上海初版（1968年香港影版）に詳しい。
- (25) 黒田彰『孝子伝図の研究』2007年、汲古書院。幼学の会編『孝子伝注解』平成15年、汲古書院に詳しい注解と考察がある。